

## Q 住宅リフォーム助成制度について

A 近隣市町の動向を注視しながら、慎重に検討していきたい（三村町長）

現在、熊野町の住宅リフォーム制度では、高齢者等を対象とした介護保険による補助制度や、障害者を対象とした補助制度がある。一般世帯等を対象とした住宅リフォーム助成制度に対する補助金制度については現段階ではないが、町内業者に仕事を依頼することから、経済効果も上がり、町の活性化につながると思われる。しかし、非常に財政が厳しい折でもあるため、今後、財政的なことも勘案し、近隣市町の動向を注視しながら、慎重に検討していきたい。



白築議員

Q 庄原市、三次市、江田島市などが助成を行っている。経済効果も上がり、住民も喜んでいけると伺った。この制度を熊野町でも導入してはいかがか。

## 教育部門

## Q 両中学校クラブ指導者のその後の動向について

A 来年度においては教科指導・生徒指導を行う優秀な人材を確保したい（林教育長）

クラブ活動の活性化については、教職員を中心とした指導者の人材確保が大きく関わっており、教科指導及びクラブ指導の両面に秀でる人材の確保に向け、県の教育委員会に対し強く働きかけるなど鋭意努力している。また、現在両中学校にはソフトテニスや柔道などのクラブ講師を町費でお願いし、指導にあたっていただいている。来年度においては、クラブ指導はもちろん、教科指導・生徒指導を行う優秀な人材を確保したいと考えている。

Q 両中学校のクラブ活動で、指導者が未経験の教師であるため、生徒が困惑している。この改善について6月議会で質問したが、その後の動向は。



佛圓議員

## Q 小学生の通学合宿の実施について

A 大変意義のある、効果的な企画であると考えている（加藤教育部長）

通学合宿は、複数学年にわたる子ども達が交流すること、公共施設を使用する自覚をもつ機会となること、そして何より、地域の方々と密接なかかわりを子ども達自身で求めることなど、大変意義のある、効果的な企画であると考えている。実施に当たっては、多くの地域の方々にボランティアとして協力していただく必要があり、また、保護者の理解と協力を得る必要がある。児童にさまざまなことを体験させるということは、大変意義があるので、予算面も含め、検討していきたい。

佛圓議員

Q 小学生の子ども達が、公共施設で定期間寝食を共にしながら学校へ通う「通学合宿」を実施してはいかがか。

## Q 熊野（初神）－海田バイパス（トンネル）について

A 当該路線の実現は現段階において困難であると考えている（上馬場建設部長）

平成17～20年度の間、広島市、東広島市、呉市を結ぶ交通基盤整備の必要性について、国、県、熊野町の3者により検討してきたが、当該ルートについては、地形、技術面で実現困難という結果であった。全国的にも新規国道事業はほとんどなく、当該路線の実現は、現段階においては困難であると考えている。また、東広島・安芸バイパスと東広島・呉自動車道が開通すると、交通量が分散するという予測もある。今後、町東部地域については、深原準工業地帯を縦断する県道瀬野野線バイパスの早期実現に向け、精力的に県に要望していく。



藤河議員

Q 熊野、海田トンネルの調査費がついたと聞いたがどうなったか。黒瀬トンネルが完成すれば、交通量も増え、当該トンネルの必要性は高まる。これまでの経過、町の考え方、今後の計画は。

渡議員

## Q 広熊道路について（早期無料開放・町道の渋滞）

A 無料開放は平成33年を予定。開放後の町道の渋滞対策にも努めていきたい（上馬場建設部長）

現在、無料開放は平成33年を予定。損失補填引当金を償還金に活用すれば、早期無料開放も可能だが、管理施設の撤去や大規模補修の費用に充てる予定との県議会での答弁であった。また、無料化後の町道の渋滞対策として、離合場所の確保、危険箇所等の改良、安全施設の充実等を実施し、スムーズな通行の確保に努めたいと考えている。一方通行化については、道路沿線関係者のすべての同意が必要。実施は難しいが、試験的な導入について調査・研究してみたい。



広島熊野道路の無料開放は平成33年を予定

Q 昨年9月の県議会二般質問で、損失補填引当金を活用すれば、早期無料開放の実施は可能とあった。町はどの様に考えているか。また、無料化後には交通渋滞等が予想される。町道の対策について、南北道路の改修・二方通行化・離合場所の設置などはどうか。